

# 生涯学び続け、地域の未来を創る人へ 「理論×実践+フィールド」の学び

大正大学 Taisho University

0からつくる「スムーズ」で  
社会課題に挑む学生たち

はじめは、授業の一環として学生が農家を訪ね、そこで芽生えた「フードロス」への問題意識だった。フードロスの削減、そして地域活性化をめざし、地域創生学部の学生が企画・運営するSDGs社会貢献型のスムーズ店が2021年に巣鴨の街なかでスタート。経営学やマーケティングの授業で学んだ理論、データサイエンス科目で修得した知識やスキルを活かし、「商品企画」「イベント企画」「データ分析・店舗づくり」といったチームに分かれ、商品開発から販売まで、ほぼすべてを学生が担っている。24年からは店舗の移転やキッチンカーの活用など、新たな展開を迎えてプロジェクトを継続していく。

スムーズの素材には、巣鴨の青果市場などで調達した規格外の果物や野菜を使用。市場のスタッフや商店街、顧客など、地域の人々の生の声や反応は、「実践」の場でしか得られないものだ。例えば、若者をターゲットにしていた「チョコバナナスムーズ」が高齢者の間で大人気になるといった想定外の事態や思いがけない発見は数多い。また、注文後の待ち時間が長いことを指摘され、改善に努めたことも。地域の応援を受け、店舗や商品のクオリティは日に日に向上し、学生の経験値やモチベーションも高まっていく。そんな好循環が街のなかで生まれている。

教室で学んだ「理論」を、学外のフィールドで「実践」し、知識や探究心を深めていく。それこそが、大正大学がめざす学びの形である。

さまざまな学びの統合から  
築き上げられた教育システム

「知識を集積するだけの時代は終わりました。これからは知識を活用できる人材、机の上で学んだ理論と、実践の場で確かめたことを高次のレベルで統合できる人材を育て、知識集約型社会に送り出していかなければならない。その使命感から、本学では『理論×実践+フィールド』を基盤とした教育カリキュラムを展開しています。そう語るのは大正大学副学長・山内 洋氏だ。その教育を構成しているのは、いくつもの学びの統合である」と山内氏は言う。

「まずは、『自律学修者の育成』と『手厚い支援体制』の統合です。自発的に学び続ける姿勢を育むためには支援性も必要です。その中心と

## ● 超スマート社会の中で地域を支え、活躍する「地域戦略人材」を育成



『チュートリアル教育』では、自律的に学ぶ姿勢を育む個別の学修支援を展開。『データサイエンス教育』は、2022年度に文部科学省から「リテラシーレベル」と認定された教育プログラムの中でも、先進的で独自の工夫・特色を有する「認定教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」として認定された。これらの【トランジション教育】を基盤に、専門分野と異分野を統合的に学び、多面的・重層的な思考を磨く【クロスディシプリン教育】、さらには実践的な学びを展開する【アントレプレナーシップ育成教育】を通して、修得した知識を実社会に活用する力の育成を全学的に行っている。

大学で得る「知識」を、新たな価値創造につながる「生きた知識」とするために。大正大学の「理論×実践+フィールド」という学びの姿勢と、それを支える教育システムについて、同大学副学長・山内 洋氏に伺った。

取材・文／草薙敦子



(左)商品企画チームは、巣鴨の青果市場の人々に新商品のアイデアを相談したり、事業者として直接商談したりしながら、調達から試作、販売までをスケジュール管理。(中央上)調達した規格外の食材はスムージー店へ。(右上)「桃のスムージーが飲んでもいい」といったお客様の声も大切に、メニュー開発やイベント企画をしている。(右下)売上推移や顧客の年齢層などはデータ分析を行い、宣伝ツールやキャンペーンを検討。学生のデザインスキルやデータ分析力は格段に向上した。

なるのが「チュートリアル教育と総合学修支援となります」。専門的な訓練を積んだチューターが、学生一人ひとりの学びと成長を支える。総合学修支援者として授業内外でのフォローを実施。また、授業では教員とタッグを組み、学生の自主的な学びを指導・促進。授業時間外も質問や相談を受け付け、学修アドバイスを行うなど、学生が学修習慣を身につけるまで、チームによる手厚いサポートが続く。

「二つ目は『学びの専門性』と『社会人基礎力』の統合。各学科の専門的な学びと全学共通の学びから資質や能力を育み、いかに社会接続させていくかは常に考えています」と山内氏。中でも、現代に不可欠なデータサイエンス教育は、全学共通教育の必修科目に設定。基礎的な情報リテラシーの習得から、産官学連携による社会の課題解決まで実践的に学修する。データをもとに考え、行動し、知識集約型社会で価値を創造できる人材の育成をめざす。

「また、『二人深く探究すること』と『仲間とアクティブに学ぶこと』の統合も本学の特長であると考えます」。個別の学修と、フィールドでの実践が循環する前述のスムージー店の運営も、この統合を象徴する学びの一つと言えるだろう。

### Information

## 大正大学



1926(大正15)年、建学の理念「智慧と慈悲の実践」のもと仏教連合大学として創立。巣鴨の街全体をキャンパスととらえ、地域・企業と連携しながら実践的な学びを深める場となることをめざす「すがもオールキャンパス構想」を推進。地学協働によるひとつづくり・まちづくりを実践している。2024年4月より、地域創生学部、人間学部、臨床心理学部、表現学部、文学部、仏教学部の6学部11学科に改組。

#### ●DATA

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1  
TEL 03-3918-7311 (代表)  
URL <https://www.tais.ac.jp/>

「地元も地方も『学びの場』」  
全国に広がる学びのフィールド

一人ひとりの学修を手厚く支援し、段階的に成長へ導くカリキュラムの中で、理論と実践、教室とフィールドの往来から自律した学修者を育てる大正大学。学生の学びの場となる「地域」とのつながりも大きな特色の一つだ。大学の拠点であり、いつも高齢者でにぎわう巣鴨の街には、大学が運営する店舗や施設がいくつも点在。全国に5つのエリアキャンパス、サテライトキャンパスを展開し、自治体や大学、団体、企業等との連携により学びのネットワークは今なお日本中に広がり続けている。



大正大学  
副学長(教学担当)  
文学部 日本文学科  
教授  
山内 洋氏

「仏教精神を出発点とする本学にとって、地域を守ることは、日本全体とその精神文化を守ることに繋がります。より良い未来のために、地域に貢献し、地域から支持される大学でありたいと考え、地域との関係を深めています。この全国のフィールドでの学びを通じて、社会の課題解決ができる人材、そして予測不能なこれからの社会をたくましく生き抜いていく人材を育ててまいります」